

あとがき

本書を手にとられた方は、アクティブ・ラーニングの各地の広がり承知されているものの「ソーシャル・イノベーション教育のための」とあることに注意を払っていただいたのではないかと思います。

本書では、ソーシャル・イノベーション教育を担ってきた大学院の1つとして、同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・イノベーションコースを紹介しました。コース全体を通してアクティブ・ラーニングの考え方を重視していることが本書よりおわかりになるのではと思います。本コースは設立後15年目を迎えており、新たな研究・教育手法の確立を実証したといえるのではないかと思います。

まずその研究対象は、自らが主体的に行動を起こすテーマにあり、その社会実験から学びを得ながら自己の研究仮説のエビデンスを明らかにしていきます。この過程に現場や大学院等での多くの対話からの学びがあります。論文の最後は、分析結果を得て自らのキャリア形成を描くことが求められます。課題の解決に向けて、さらに自らがどう取り組んでいくことができるのかを考えることになります。このような実践のうえに研究を行うため、論文は自然とオリジナリティの高い内容になり得るのです。

実際のところ、現場の学びが各人の成長を促したことが、これまで書かれてきた院生のみなさんの論文から伺えます。本書の「同志社 SI コースはどのようにソーシャル・イノベーターを育成してきたのか？」に登場したソーシャル・イノベーターたちが語っている通り、論文に昇華していくことが自らのアクションを論理的に説明する力、専門的な知識を応用する力を身につけることにつながりました。「パッションとアクションを自らデザインしていく人材」の育成をうたったように、その結果は、研究を生かす実践家の育成と現場を重視する研究者の育成に加えて、新たなキャリアの創造を支えてきました。

さらに本書は、教育界で大いに注目されている東工大の教育改革のストーリーを取り上げました。全学の基礎となる教養教育として「志」をもった人材育成にアクティブ・ラーニングが必須であったことがわかります。ここでのリーダーシップ教育は、学士過程から博士課程まで一貫とした人材育成を企図しています。学び合いを深める方法として、専門と学年を超えた関係を築く大学院生の役割がありました。また、ソーシャル・イノベーターに必須の「一人称で考える」ことを促し、そのうえで、チームにより学び合いが行われ、「チームの中で自分の強みをいかしてチーム全体をどう導いていくのか」を考える機会を与えています。本プログラムは学びの段階がありそれを自らが「見える化」できるため、最後に、自分の志と考えを5千から1万字という分量にまとめることができる仕掛けになっていました。さらに興味深い点は、多様な専門性をもつ教員の役割でした。ファシリテーターとなり学び合いを支えるとともに、教員間の振り返りによる学びがここでも生じていることでした。そこにはおそらく「パッション」が溢れていることが想像できます。

このように、本書は多様なアクティブ・ラーニングの実践例が登場し、佐野淳也先生の尽力により意欲的な内容になりました。佐野先生ご自身も、自ら大教室においても魅力的なアクティブ・ラーニングができることを実践によって証明し、その科目は例年多くの学生が受講する人気科目となっています。本書は、高等教育のみならず多様な教育現場や市民活動、研修において活用いただけるものを多く含んでいます。本書が「パッション」のある豊かな学びの場づくりに寄与できることを願ってやみません。

服部 篤子

執筆者紹介（掲載順）

- 佐野 淳也 （同志社大学政策学部／総合政策科学研究科 准教授）
藤本 直樹 （立命館大学大学院政策科学研究科 博士前期課程）
服部 篤子 （同志社大学政策学部／総合政策科学研究科 教授）
森 友佑 （株式会社日本政策金融公庫西陣支店 融資担当課長）
佐藤 美奈子 （同志社大学大学院総合政策科学研究科 博士前期課程）
小辻 寿規 （立命館大学共通教育推進機構 准教授）
森田 誠二 （NPO 法人 ちはやぶる宇治の未来をつくる会 代表理事）
出村 沙代 （凸凹フューチャーセンター 共同代表）
今里 滋 （同志社大学政策学部／総合政策科学研究科 教授）
新川 達郎 （同志社大学政策学部／総合政策科学研究科 教授）
三田 果菜 （Happy Beauty Project 代表）
松原 明美 （一般社団法人こころ館 代表理事）
川那辺 香乃 （アートコーディネーター）
上田 紀行 （東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 教授）
室田 真男 （東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 教授）
中野 民夫 （東京工業大学リベラルアーツ研究教育院 教授）
嘉村 賢州 （東京工業大学リーダーシップ教育院 特任准教授）
信岡 良亮 （株式会社アスノオト 代表取締役）

ソーシャル・イノベーション教育のためのアクティブ・ラーニング

Active Learning for Social Innovation Education

2020年3月31日発行

編集者：佐野 淳也・服部 篤子

編集スタッフ：藤本 直樹

発行：同志社大学政策学部 佐野淳也研究室

印刷：同志社大学良心館プリントステーション

同志社大学政策学部 佐野淳也研究室

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル

同志社大学新町キャンパス 溪水館 208 号室

Tel 075-251-3564

Email: jsano@mail.doshisha.ac.jp

* この冊子は、同志社大学 2019 年度教育方法・教材開発費補助により作成されました



同志社大学 政策学部 佐野淳也研究室

Social Innovation Lab.
Faculty of Policy Studies
Doshisha University